

老後の不安解消サポーター

保険金で解決できないリスクの備え啓発

日本ハッピーエンディング協会 ハッピーエンディングプランナー養成

一般社団法人日本ハッピーエンディング協会(東京都千代田区、齋藤真衡代表理事)は、高齢社会において顧客のハッピーエンディングをサポートするための会員制度「ハッピーエンディングプランナー」の養成を9月から開始した。セカンドライフにおける意思能力の喪失リスクなど、保険金で解決できないリスクに対する備えを「もうひとつの保険」として啓発することで、セカンドライフにおける不安を解消する。齋藤代表理事は「『もうひとつの保険』は生命保険と同じように元気で健康な時にしか考え、備えることができないリスクマネジメントだ」と強調する。

近年、終活に関心をもち高齢者が増えるとともに、エンディングノートなどのツールも普及しつつある。しかし、エンディングノートは「書くのが面倒」「必要性にいまひとつ実感が湧かない」などを理由に先送りしてしまおう人が多い。また、病気やけがなどで人事不省に陥ってしまったり、認知症になってしまった後や死後は自分自身でモノ・コトを判断することができないため、セカンドライフにおいて意思能力の喪失は大きなリスクが多々あることを痛感。そうしたリスクに

対する備えを「もうひとつの保険」として、保険と共に幅広く啓発・普及させるため、2014年12月に㈱回を設立した。

同協会では現在、ハッピーエンディングに関する知識の啓発や普及、調査、研究、情報提供、書籍の発行などの事業を展開している。

「ハッピーエンディングプランナー」は、顧客のセカンドライフにおける漠然とした不安を具体的なリスクに置き換えて気付きを与えるとともに、そのリスクの解決の方向性などに関する情報を提供して不安を解消することが使命だ。リスクへの気付きを与えるツールには



セカンドライフのリスクを啓発する「Happy Endingカード」

え、介護・看取りなど9カテゴリーに関するリスクが記載されたカードが49枚あることから、顧客に備えが必要となりリスクと

機関ではシニア世代に対する幅広い意向確認ツール、弁護士や税理士などは遺言・相続のニード喚起と意向確認ツールとしても活用可能だ」との考えを示す。

「ハッピーエンディングプランナー」会員に入会すると、養成講座(1日)を受講することが可能だ。また、ウェブのデータベース「ハッピーエンディング劇場」が活用できる。ウェブ上で「Happy Ending Card」が活用できる他、カードだけでは不足しているデータなども閲覧可能なことから、より納得感のある情報提供が可能になる。

1月からHP上で募集しており、養成講座の受講料は2万円、入会金は5000円、年会費は1万2000円(年払い)となっている。また、毎年更新が必要だ。同協会では今後、保険募集人が集まるイベントなどに積極的に参加するなどしてPRしていく方針だ。また、「Happy Ending Card」は顧客のセカンドライフにおけるニーズを幅広く収集できる一方、全てのニーズを解決するためのサービスを保険募集人やFPらが単独で提供することは不可能なことから、他業種の会員が地域ごとに連携できる組織の構築にも取り組んでいる。

会員が連携できる組織の構築も

ゲーム感覚でセカンドライフの幅広い意向確認やコミュニケーションができるツール「Happy Endingカード」を開発して「もうひとつの保険」の啓発・普及に取り組んできたが、より啓発・普及させるためには専門家の育成が必要だと

して、「もうひとつの保険」の思想を共有する保険代理店経営者や士業、FPらと共に15年11月に同協会を立ち上げた。

齋藤代表理事は「日本では世帯の90%以上が生命保険に加入しているが、お金以外のリスクに

開いている。また、セカンドライフの包括的な相談ができる専門家「ハッピーエンディングプランナー」を育成するために養成講座を開催している。

㈱回が提供する「Happy Ending Card」を活用する。具体的には、同ツールにはセカンドライフプランニングや病気の備

齋藤代表理事は「保険募集人がプランナーになれば、保険金で解決できないリスクへの備えも保険とセットで提案できるようになる。また、金融



齋藤代表理事

同協会を立ち上げた。

齋藤代表理事は「日本では世帯の90%以上が生命保険に加入しているが、お金以外のリスクに